

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現状

学校番号	19	学校名	県立水戸農業高等学校				課程	全日制		校長名	藤田和文					
教頭名	鈴木 猛		岡田 浩			高野 太一			事務室長名	益子 真治						
教職員数	教諭	65	養護教諭	2	常勤講師	6	非常勤講師	5	実習教諭・実習講師・実習助手	25	事務職員	7	技術職員等	28	計	138
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	農業科	33	7	25	11	27	9			85	27				3	
	畜産科	12	28	13	27	12	27			37	82				3	
	園芸科	16	24	21	17	15	23			52	64				3	
	生活科学科	5	35	3	36	3	35			11	106				3	
	農業土木科	34	0	38	2	34	2			106	4				3	
	食品化学科	17	23	17	22	19	21			53	66				3	
農業経済科	27	13	23	11	24	14			74	38	3					

2 目指す学校像

<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校 ・生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校 ・魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校 ・体験学習等を通して、コミュニケーション能力を磨くことができる学校 ・地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともに、それらに開かれた学校
--

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習活動	・将来に対し明確な目標を持つ生徒と持たない生徒の学習意欲の差が著しい。	・個に応じたわかりやすい授業を心がけ、授業に積極的に参加する意識を育成する。
進路指導	・生徒の多様な進路希望（進学4割、就職6割）に対応できる指導体制がやや不十分である。 ・望ましい職業観・勤労観が身に付いていない生徒が見られる。 ・農業教育の特性を生かした進路指導が十分に展開できていない。	・各学年との連絡を密にし、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により職業体験活動の参加数を高め、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。
生徒指導	・身だしなみ、公共マナーへの遵守意識が80%程度醸成されてきたが、一部では主体的に校則を守れない生徒がみられる。	・保護者との連携を密にし、基本的な生活習慣の育成を図る。 ・校則や公共のルールやマナーを守ることの大切さを理解させる。
特別活動	・部活動の加入率が低い。 ・いろいろな学校行事に対して生徒の参加意欲の低下がみられる。	・生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入率を高める。
農業教育	・学ぶことや実習の意義を十分理解できず、農業への興味・関心の低い生徒がみられる。 ・農業クラブ活動、体験学習への参加意欲がやや乏しい。	・体験学習の充実と農業クラブの各種発表会、競技会への参加人数を増やし、活性化に努める。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・就農講話等を通して職業観・勤労観を養う。
働き方改革	・本校は、県内最大規模の農業高校であり、いわゆる「生き物」を飼育・栽培していることで、教職員の職種や校務分掌が多岐にわたっている。 ・教職員一人ひとりの家庭状況や生活環境が異なっているため、学校全体として画一的な勤務改善をすることは難しい。	・学科ごとや部門ごとに業務内容の見直しや再検討等による事務改善・効率化（スラップアンドビルド）の必要がある。 ・教職員一人ひとりが、出退勤時間の自己管理を通して、勤務時間の縮減に向けた意識改革の醸成とそれに伴う校務の効率化と質の向上に務めることで、効果的な教育活動を具現化する。

4 中期的目標

1	学習活動に意欲を持たせるために、特色ある本校施設を十分に活かした教育課程を編成するとともに、体験活動から基礎基本の学習にフィードバックする体制を作り上げる。
2	四年制大学・短期大学への進学者を増やすために、進路ガイダンスや個人面接、課外学習の機会を増やし、AO入試・推薦入試・一般入試等の多様な入試形態に対応できるようにきめ細かな進路指導を推進する。機会あるごとに大学説明会に参加することを促すとともに、大学訪問を行い、入試情報や指定校推薦枠の獲得に努める。
3	心の教育の充実を図るため、生命の尊重や規律ある生活、マナーの向上を含めた道德教育を推進するとともに、ボランティア活動への積極的な参加を推進する。
4	生徒自身が主体的に計画・実践する諸活動を通して成就感や達成感が体験できるようにする。
5	農業各分野の実験・実習や実践的・体験的な学習及び農業クラブ活動などを通して、生徒の自主的な学習を推進する。
6	勤務時間の縮減に向けた教職員一人ひとりの意識改革の醸成と、それに伴う校務の効率化と質の向上に向けて努力することによって、働き方改革を更に推し進め、教職員の人間性や創造性を高めながら、効果的な教育活動を具現化する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の有為な形成者としての人格の完成を目指す。 豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力の育成を図ることで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。 系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式を創造しながらの特別活動及び部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。また、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。 運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。 生徒が、HR活動等を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> 健康と安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 防災、不審者対応などのマニュアルに基づいた危機管理を徹底し、訓練等による十分な備えを怠らないようにする。 生徒及び職員の健康管理に努め、新型コロナウイルス感染症等の防止、健康の保持増進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 農業専門教育の充実と地域連携 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 GIGAスクール構想、BYODの推進による個別最適な学びと共同的な学びの実現を図る。 最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学科ごとや部門ごとに業務内容の見直しや再点検等による事務改善・効率化（スクラップアンドビルド）を積極的に推進、最終的には業務量の削減に努める。 管理職が率先して、有給休暇等を取得することで、教職員一人ひとりの意識改革の醸成とそれに伴う校務の効率化と質の向上に向けて主体的に取り組むことで、効果的な教育活動を具現化する。